

町指定文化財(史跡)

「平治館跡」

指定年月日/昭和四八年一月二〇日
所在地/城里町北方
管理/所有者/個人

町指定文化財「平治館跡」は、ヘイジガタテとも呼ばれ、別名を出丸城または土丸城といわれています。北方台地東端の洞作と滝ノ上に挟まれた舌状の突出地に位置し、南側と北側は深い谷津、東側は比高約三〇メートルの崖と低湿地に護られています。広大な徳化原に続く西側には、高さ約二メートルの土塁を築いて防御施設とし、その南端に出入口を設けています。平治館の築造者や時期には、諸説あります。

『水府史料』(江戸時代)は、「ヘイジは平氏の事で、常陸平氏の一族である大塚氏がここに住したのである」とし、その理由として、寛文(一六六一〜一六七三年)以前この場所に、大塚氏一族の石毛荒四郎政幹(平安時代中期)を祀る荒人神社が存在したことをあげています。

『桂村の文化財』(昭和五八年)で



▲平治館跡(国道123号方面から撮影)

は、「南北朝時代に佐貫氏が築き、後に穂高平治が居住した。天正(一五七三〜一五九二年)年間の頼化原合戦のときは大山家の出丸城であった」と記されています。佐貫氏については不明ですが、穂高平治は、『頼化原合戦記』(江戸時代)に、石塚・小場連合軍の攻撃に備えて土丸城の砦を固めた大山方の武将の一人として登場する、保高平治のことだと思われれます。

平治館の築造者やその年代等については、なお検討を要しますが、戦国時代には大山城の出城としての機能を果たしていたことは確かでしょう。

解説文/町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局

☎029-288-3135

俳句

白浪や累累として落椿
今瀬 多代美
古寺の床のきしみや寒紅梅
綿引 英子
満月の裏庭であり猫の恋
中野 千賀子
雛祭白酒飲んでほろと酔ひ
森 静江
風になほ固さ残り福寿草
瀬谷 博子
巻尺のまつ赤な目盛り春の土
竹内 幸子

ずっしりと大地踏みしめ寒立馬
田口 勝元
児童らの祝い太鼓や年の明け
岩下 金司
走り根に乱れる歩幅息白し
仲田 まちゑ
梅が香や臨時列車の停留所
寺門 孝子

川柳

計報欄まず目を通し紙面見る
富田 多蔵
里帰り土産の品は紙パンツ
車田 綾子
弥栄の年号待ちやドキドキし
川原 清
今年もまた春告げ草はひっそりと
飯村 孝一

文芸しろさと

短歌

庭中の野村もみぢの七変化
年に幾度も彩り変へる
所 美恵子
年賀状を受けて懐かしき面
うかび松竹梅のみな美しく
山形 式妙
平成は今年で最後新しい年号
はいかなる名義となるらむ
杉山 みちこ
先駆けるロマンを持ちし鮭
一尾正月料理に挑戦したり
大森 久子
菜園の寒さに耐えし冬菜摘
み食ぶるに我も力湧きくる
佐川 あや

余生なるこれからの日々記しゆ
かむ真新なる日記帳を開けり
渡辺 千紗子
凍てつける庭端の土をもち上
げて水仙の芽は顔出して居り
枝 不美
六年間共に学びし大町の友
も逝きたり家族のこして
島 愛子
ランドセル背負いてくると振
り向きぬ末孫の顔少しはにかむ
信田 育子
小六の男孫とボールを投げ合
いて届くボールに逞しき覚ゆ
萩谷 登喜子
ろう梅の香に誘われて庭に
出づ冬日明るき今日は節分
富田 佐智子

